

景観素材としてのエゾリュウキンカの種子発芽特性

森林・緑地管理学講座 花卉・緑地計画学分野
藤 彰矩

(背景と目的)

エゾリュウキンカ(*Caltha palustris* var. *barathei* Hance)は、キンポウゲ科の多年草で、本州北部から北海道、千島、樺太、朝鮮北部、およびウスリーなどに分布する。北海道では、ミズバショウの花とともに色鮮やかな景観を形成し、北国の春を代表する花の一つである。しかし、このような景観は、宅地や道路の造成など人の開発行為によって減少しつつある。このように貴重になりつつある残された野生草花を、保全または景観素材として利用するためには、その植物の様々な情報を蓄積することが重要である。しかし、エゾリュウキンカに関する報告は見あたらない。

本研究では、エゾリュウキンカに関する情報の中でも、種子の発根と出芽に必要な条件を明らかにする。そして、種子の休眠の種類を決定し、播種または育苗によって群落の保全や、新たに群落を創出する際の知見を蓄積することを目的とした。

(方法)

1) 種子の休眠の種類

(1) 野外での胚生長・発根・出芽フェノロジー

採取した直後の種子を、野外に播種または埋土し、胚生長、発根、および出芽の様子を観察した。

(2) 温度条件が発根に及ぼす影響

室内で、野外での温度条件を再現し、種子が散布された直後の夏の温度から秋、冬、および春の温度を様々に組み合わせた。

(3) ジベレリンが発根に及ぼす影響

濃度 0 ppm, 10 ppm, 100 ppm, および 1,000 ppm のジベレリンが発根に及ぼす影響を調べた。

2) 播種・育苗する際の有用な知見

(1) 低温湿層時の温度と期間が発根に及ぼす影響

種子を短期間で効率的に発根させるために、0°Cまたは5°Cの低温をそれぞれ30日、60日、90日、および120日

(2) 貯蔵条件が発根に及ぼす影響

5°Cまたは15°C乾燥貯蔵を、0ヶ月、7ヶ月、および12ヶ月施した種子の発根能力を確かめた。

(結果および考察)

1) 種子の休眠の種類

エゾリュウキンカの種子の発根には低温が必要であり、ジベレリンが低温の代替をしたため、intermediate complex MPD を持つといえる。

2) 播種・育苗する際の有用な知見

種子採取後5°C乾燥貯蔵し、11月上旬までに播種すると翌春の高い出芽率を期待できる。